

はじめに

岐阜県では、昨年度、大規模災害時に広域医療搬送を行う際に活動の拠点となるSCU (Staging Care Unit: 広域搬送拠点臨時医療施設) を県内2箇所を設置しました。

そのひとつとして、高山自動車短期大学が飛騨地域の拠点施設として指定・設置されております。

また、平成26年9月11日には、久美愛厚生病院が災害時に医療救護活動の中心的な役割を担う「災害指定病院」と併せて、災害時に派遣する医療チーム(=DMAT (Disaster Medical Assistance Team)) を保有する「DMAT指定病院」として新たに指定されました。

これにより当地域には、災害拠点病院が高山赤十字病院と久美愛厚生病院の2病院となったことで、より一層地域における災害医療体制の充実を図ることができました。

これもひとえに関係者各位のご尽力の賜と厚く感謝申し上げます。

飛騨保健所としましても、今後も関係者の皆様方と連携しながら、安心して生活できる地域づくりに取り組んでまいりますので、皆様の御支援と御協力をお願い申し上げます。

さて、この度、飛騨地域の保健衛生の概要をまとめた平成25年度統計版の『飛騨圏域の公衆衛生』を発刊させていただきました。

本冊子の歴史は古く、旧高山保健所においては、飛騨公衆衛生協議会の御支援のもと、約50年前の昭和39年8月1日に「飛騨の公衆衛生」という名称で創刊されました。また、それ以前には、昭和30年に旧高山保健所より「公衆衛生要覧」という冊子が発刊されていきました。

同様に、旧益田保健所においては、益田公衆衛生協議会の御支援のもと、「益田の公衆衛生」が発刊されました。

「飛騨の公衆衛生」と「益田の公衆衛生」の発刊は、旧高山保健所と旧益田保健所がそれぞれ別の保健所であった平成11年度まで続き、平成12年度の県組織の再編により飛騨地域保健所となって以降、今日まで『飛騨圏域の公衆衛生』として毎年発刊する運びとなっています。

本冊子を業務の参考として広く活用していただければ幸いです。

平成27年3月

飛騨保健所長 杉山 貴広



清流の国ぎふ憲章

～ 豊かな森と清き水 世界に誇れる 我が清流の国 ～

岐阜県は、古来、山紫水明の自然に恵まれ、世界に誇る伝統と文化を育んできました。豊かな森を源とする「清流」は、県内をあまねく流れ、里や街を潤しています。そして、「心の清流」として、私たちの心の奥底にも脈々と流れ、安らぎと豊かさをもたらしています。

私たちの「清流」は、飛騨の木工芸、美濃和紙、関の刃物、東濃の陶磁器など匠の技を磨き、千有余年の歴史を誇る鶉飼などの伝統文化を育むとともに、新たな未来を創造する源になっています。

私たち岐阜県民は、「清流」の恵みに感謝し、「清流」に育まれた、自然・歴史・伝統・文化・技をふるさとの宝ものとして、活かし、伝えてまいります。

そして、人と人、自然と人との絆を深め、世代を超えた循環の中で、岐阜県の底力になり、100年、200年先の未来を築いていくため、ここに「清流の国ぎふ憲章」を定めます。

「清流の国ぎふ」に生きる私たちは、

知

清流がもたらした

自然、歴史、伝統、文化、技を知り学びます

創

ふるさとの宝ものを磨き活かし、

新たな創造と発信に努めます

伝

清流の恵みを新たな世代へと守り伝えます